

スピロピタン錠 0.25mg スピロピタン錠 1mg

【この薬は？】

販売名	スピロピタン錠 0.25mg Spiropitan Tablets 0.25mg	スピロピタン錠 1mg Spiropitan Tablets 1mg
一般名	スピペロン Spiperone	
含有量 (1 錠中)	0.25mg	1mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、精神神経用剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳内の神経伝達物質の受容体に作用してそのバランスを整えます。
- ・次の病気の人に処方されます。

統合失調症

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・昏睡状態の人、またはバルビツール酸誘導体などの中枢神経抑制剤の強い影響下にある人
- ・重い心不全の人
- ・パーキンソン病またはレビー小体型認知症の人
- ・過去にスピロピタン錠に含まれる成分またはブチロフェノン系化合物に対し過敏症のあった人
- ・アドレナリンを使用している人(アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療、または歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く)

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・心臓や血管の病気の人、低血圧の人、またはこれらが疑われている人
- ・てんかんなどのけいれん性疾患がある人、または過去にこれらの疾患と診断されたことのある人
- ・過去に薬剤で過敏症のあった人
- ・長時間動かないでじっとしている人、長期間病床にある人、肥満の人、脱水状態の人
- ・肝臓に障害のある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬〔アドレナリン(アナフィラキシーの救急治療、または歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く)(ボスミン)〕や併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量は、次のとおりです。

販売名	スピロピタン錠 0.25 mg	スピロピタン錠 1mg
1 日量	最初約 1 週間は、2～6 錠で開始されます。その後、6～18 錠まで徐々に増量されます。	最初約 1 週間は、1 錠で開始されます。その後、2～4 錠まで徐々に増量されます。

●どのように飲むか？

コップ 1 杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して 2 回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1 回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は 1 回とばして、次の時間に 1 回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

重い錐体外路症状（動きが遅い、眼球が上を向く、手足のふるえやこわばり、首のねじれやつっぱり、筋肉のこわばり、足がそわそわして落ち着かない）、低血圧（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、意識の消失）、過度の鎮静（活動量や発話量が少なくなる、眠り込んでしまう）などの症状があらわれることがあります。

また、まれにQT延長（めまい、動悸（どうき）、気を失う）、心室性不整脈（トルサード・ポアントを含む）（めまい、動悸、胸の不快感、気を失う）、心停止（気を失う）があらわれることがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下が起こることがあるので、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作は行わないようにしてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・アルコール飲料はこの薬に影響しますので、控えてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
悪性症候群 (Syndrome malin) あくせいしょうこうぐん (シンドローム マリン)	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
腸管麻痺 ちょうかんまひ	便やおならが出にくい、吐き気、嘔吐（おうと）、お腹が張る
突然死 とつぜんし	気を失う
抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH) こうりょうホルモンふてきごうぶんびつしょうこうぐん (エスアイエイディーエイチ)	けいれん、意識の低下、意識の消失、吐き気、食欲不振
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
白血球減少 はっけつきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
肺塞栓症 はいそくせんしょう	胸の痛み、突然の息切れ

深部静脈血栓症 しんぶじょうみやくけっせん しょう	発熱、皮膚が青紫～暗紫色になる、手足の爪が青紫～暗紫色になる、唇が青紫色になる、下肢のむくみ、下肢の痛み
---------------------------------	--

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	突然の高熱、寒気、けいれん、発熱、高熱、汗をかく、体のこわばり
頭部	気を失う、ぼーっとする、意識の低下、意識の消失
口や喉	飲み込みにくい、嘔吐、吐き気、喉の痛み、唇が青紫色になる、話しづらい、よだれが出る
胸部	胸の痛み、突然の息切れ、呼吸数が増える
腹部	食欲不振、お腹が張る
手・足	下肢の痛み、下肢のむくみ、手足の爪が青紫～暗紫色になる、手足のふるえ、脈が速くなる
皮膚	皮膚が青紫～暗紫色になる
便	便やおならが出にくい
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

販売名	スピロピタン錠 0.25mg	スピロピタン錠 1mg
形状	糖衣錠 	糖衣錠 
直径	5.9mm	8.4mm
厚さ	3.4mm	4.6mm
重さ	90mg	250mg
色	淡黄赤色	橙黄色
識別コード	E 117	E 118

【この薬に含まれているのは？】

販売名	スピロピタン錠 0.25mg	スピロピタン錠 1mg
有効成分	スピペロン	
添加剤	黄色5号、カルナウバロウ、結晶セルロース、合成ケイ酸アルミニウム、小麦粉、ステアリン酸、ステアリン酸カルシウム、精製白糖、ゼラチン、タルク、沈降炭酸カルシウム、トウモロコシデンプン、乳糖水和物、白色セラック、ヒド	黄色5号、カルナウバロウ、結晶セルロース、合成ケイ酸アルミニウム、小麦粉、ステアリン酸、ステアリン酸カルシウム、精製白糖、ゼラチン、タルク、沈降炭酸カルシウム、トウモロコシデンプン、乳糖水和物、白色セラック、ヒドロキシ

	ロキシプロピルセルロース、ポビドン、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、ミツロウ	プロピルセルロース、ポビドン、ポリビニルアルコール（部分けん化物）
--	---	-----------------------------------

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（１～３０℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：アルフレッサ ファーマ株式会社

(<https://www.alfresa-pharma.co.jp/>)

販売会社：エーザイ株式会社(<https://www.eisai.co.jp/>)

hhc ホットライン

電話：フリーダイヤル 0120-151-454

受付時間：９時～１８時（月～金）９時～１７時（土、日、祝日）